

【ポスター発表】

社会福祉士国家試験科目における学習支援にかかる一考察

- 科目別ポジショニングマップを活用して -

常磐大学 中川 健司 (008164)

中村 英三 (常磐大学・004368) 宮本 秀樹 (常磐大学・006676)

キーワード：社会福祉士国家試験科目、ポジショニングマップ、学習支援

1. 研究目的

社会福祉士養成校の責務として、最終的には社会福祉士取得を目指す学生が社会福祉士国家試験に合格できるよう学習支援をすることが挙げられる。これに基づいて、各養成校は学内・学外の資源を用いて、受験対策を施している。また、近年の入学者を見ると、AO入試、推薦入試で入学する者の基礎的な学力の低下が指摘されている。その絡みで言えば、社会福祉士国家試験で初めて本格的な受験を体験する者も相当数いるという現実がある。

本学現役生の社会福祉士国家試験受験に着目すると、次の2つのレベルがある。

受験資格を取得するための学び

国家試験合格のための勉強

国家試験を受験する上で、**が即**に結びつくことが理想的な状態であるとすれば、最も望ましくないのは、**と**の乖離状態が著しい場合であると言えよう。

本研究の目的は、**の学びと**の勉強との乖離状態を一部のフィールドを用いてパイロット的に調べ、「いかに学びやすい学習環境を提供できるか」という課題に取り組むことにある。つまり、上記のような特性を持つ学生にとって「入り口としての科目」から「出口としての科目」をどのように配列すれば、効果的な学びが可能になるかに焦点を当てる。また、これに関連して、下記の先行研究を踏まえ、科目にかかるポジショニングマップを作成し、国家試験受験に向けた効果的な学びのための科目配列という試案を提示する。

2. 研究の視点および方法

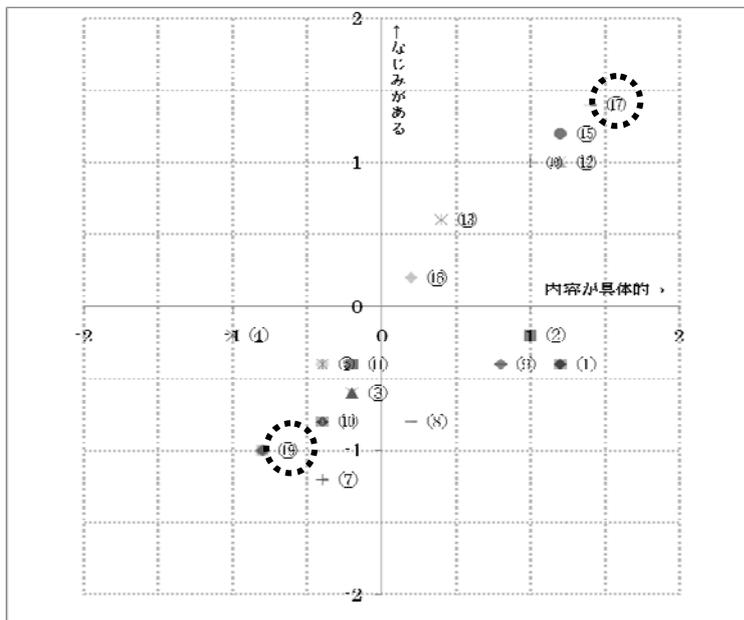
「介護福祉士国家試験における科目別学習漢字選定の試み」(中川健司・中村英三・角南北斗・齋藤真美、専門日本語教育学会、2011年)において、EPA(経済連携協定)に基づき来日したインドネシア及びフィリピン出身の候補者に対する介護福祉士国家試験を見据えた学習支援として、次の考察がなされた。EPA候補者は非漢字圏出身で、日本語学習歴が浅い者が多いという点から、どの科目順で学習すれば効果的な漢字学習が可能であるかというねらいのもと、各科目にかかる「なじみがある なじみがない」「抽象性が高い 具体性が高い」という2つの尺度から、各科目のポジショニングマップの作成を試みた。

本研究は先行研究を踏まえ、上記の尺度を用いて、社会福祉士国家試験科目について同様の位置づけを、「教職員の視点」と「学生の視点」との比較の中で考察することとする。

調査内容は、社会福祉士国家試験の各科目の内容がそれを学ぶ学生にとってどのように捉えられているかについて、前述の「なじみがある なじみがない」「抽象性が高い 具体性が高い」という2つの尺度から、それぞれ7～1点までの7段階で答えるものであり、これを本学社会福祉士養成課程教職員及び同課程を受講中の学生の双方を対象に行う。

3. 倫理的配慮

調査に際しては、調査協力依頼文を基に対象者に対し研究の趣旨を説明する。さらに、調査結果は、当該研究のみに使用し、個別のデータが外部に公開されることはない旨の説明を付け加え、了解を得た上で調査実施と分析を行う。



4. 研究結果

(1) 教職員のデータ

本学社会福祉士養成課程教職員5名を対象に行った調査の結果をポジショニングマップにまとめたのが左の図である。(番号は第23回社会福祉士国家試験『受験の手引』(P4)による試験科目の出題順位を表す。)これによると、学生にとって学びやすいと考えられる「内容になじみがあり、具体性が高い」科目に

分類される代表的なものとして「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(右上の円)が挙げられる。また、逆に学びにくいと考えられる「内容になじみがなく、抽象性が高い」ものとして「更生保護制度」(左下の円)が挙げられる。このように、このポジショニングマップから指導にあたる教職員の各科目の内容に対する認識が見えてくる。

(2) 学生のデータ

上の図は、教職員のとらえ方であったが、それに対して社会福祉士を目指す学生のそれはどのようなものであろうか。それを知るためには同様の調査を学生に対しても行う必要があるが、そのためには、学生が国家試験全科目に触れていることが条件となる。本学の場合、社会福祉士受験のための勉強会を有志による自主勉強会という形で開催しており、参加者のほとんどが4年になって初めて国家試験の問題に接するという状況である。現在、過去問題の第21回と22回の一部に取り組んでいるため、それが終了する7月末を待って学生対象の調査を行う。学生側のデータは、教職員のデータと比較対照したものをポスター発表時に提示することとする。なお、学生の調査対象者は25名程度の予定である。